



こんにちは

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです！

2025年

720

No.1102



医療改悪 鼻炎薬が12倍に!!

今たたかわれている参議院選挙の私たちの目標は、参議員でも与党を少数に追い込むこと。そして「一緒に社会を変えよう」と呼びかけています。では、どの野党を選ぶことが社会を変えられるのでしょうか。

各野党の公約は、賛同できる提案もあると思いますが、心配な提案もあります。前回のこのニュースでは、医療費の削減を目的に、延命治療の全額自己負担導入や終末期医療の見直しを提案している野党を紹介しました。

同時に、後期高齢者医療の窓口負担の引き上げも盛り込んでいます。高齢者を支える現役世代の負担を減らし、消費を活性化するためだと説明しますが、高齢者に冷たい政治は、結果的に若者の未来も暗くします。年金制度も含め、老後の生活が安心してこそ、若者にも希望ある社会になるのではないのでしょうか。

自民・公明が進め、維新や国民民主が賛同する医療費削減計画の中には、26年度からOTC類似薬を保険から外すことも盛り込まれました。OTC類似薬は、まちの薬屋さんで売っている薬と同じ効き目や成分の薬で、お医者さんが処方し、病院薬局で購入する薬のことです。

今は、OTC類似薬は保険が適用されているため、患者負担は1割から3割です。OTC類似薬には、湿布やアレルギー、鼻炎、喘息、リウマチなどの薬が含まれます。多くが毎日使う薬です。10割負担になれば、薬を使えなくなる人が増えるでしょう。

OTC類似薬が保険から外されることで、病院には行かず市販薬に頼る人も増えると思います。それが、狙いなのでしょうね。医療現場からは、受診控えによる健康の悪化や併用してはいけない薬を飲んでしまう心配があるといいます。

OTC類似薬と市販薬と比較すると、鼻炎薬は1錠6.7円に対し市販薬は83円（12倍）、喘息薬は1錠3.2円に対し125円（38倍）です。慢性疾患でのこの大きな差に、不安を覚えるのと同時に怒りも込み上げてきます。

日本には、世界に誇れる“国民皆保険制度”があります。全ての国民が平等に医療を受けることができる制度です。それをぶち壊すことをやっていいのでしょうか。投票の際には、医療破壊を狙う政党はどこなのか、しっかり見極めることが大切です。